

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 7 部門第 3 区分
 【発行日】平成31年4月4日 (2019.4.4)

【公表番号】特表2017-512387(P2017-512387A)
 【公表日】平成29年5月18日 (2017.5.18)
 【年通号数】公開・登録公報2017-018
 【出願番号】特願2016-534909(P2016-534909)
 【国際特許分類】

H 0 3 H 7/01 (2006.01)

H 0 1 L 43/06 (2006.01)

【 F I 】

H 0 3 H 7/01 Z

H 0 1 L 43/06 P

【誤訳訂正書】
 【提出日】平成31年2月22日 (2019.2.22)
 【誤訳訂正 1】
 【訂正対象書類名】明細書
 【訂正対象項目名】0 0 3 0
 【訂正方法】変更
 【訂正の内容】
 【 0 0 3 0 】
 【数 2】

$$-\sigma \cdot (\vec{n}_\theta \cdot \vec{\nabla} V(s)) = i\omega c(s)(V_{ext}(s) - V(s))$$

如何なる領域の周波数 に関してこの境界条件が満たされ得るのかは、つまりは $c(s)$ の推移に依存する。ジャイレータの所望の動作周波数 の領域で最も良く適合する $c(s)$ は、例えば、パラメータ最適化又は変分計算によって算出することができる。

【誤訳訂正 2】
 【訂正対象書類名】明細書
 【訂正対象項目名】0 0 4 1
 【訂正方法】変更
 【訂正の内容】
 【 0 0 4 1 】

これに関する前提条件は、 $c(s)$ が制限されること、即ち、入力電極から出力電極にまで延びるホール効果材料の外周に沿って $c(s)$ が上回らない値が有ることである。微分方程式の解に関するノイマンの境界条件は、構造的に似た解に繋がるが、 $c(s)$ はホール効果材料の周縁に沿って無限の方に進まなければならない。その場合、この解は、周縁で特異となり、そのことは、大きな電位勾配